

第1章 解体作業の進展

先の解体中間報告1では、下成基壇上面のN18を解体し、下成基壇内部の発掘調査をおこなった時点までの報告をおこなった。その後、南祠堂の下成基壇内に中央祠堂南階段がそのまま残っていることが判明したので、下成基壇外装石材の解体を中断して、2012年度後半を費やして中央祠堂南階段の調査と記録をおこなった。2013年度に入り下成基壇の基壇外装の解体を開始した。2013年度末の時点で、最下段のN25の解体を終了するとともに、基壇内で発見された石列の調査を終了した。本書ではこの平成25年度末までの調査修復の進展を報告する。

2013年6月には南祠堂南側で、2カ所の試験盛土を製作し、基壇土の改良のためのデータを収集した。7月には保存科学の調査をおこなうとともに、基壇内埋土の改良混合比を決定し、ラテライトパウダーと粘土パウダー製作のための準備をおこなった。また掘込地業の調査を随時おこない、埋納土器などを検出した。

その後9月にはN23を解体した。N23の解体が終了した時点で、南祠堂基壇外装と中央祠堂との取り付け部の調査をおこなうこととし、10月に建築班の調査をおこなった。中央祠堂との取り付け部を中心に11月に再び(株)共和による3D測量をおこなった。11月に入り雨期が終了したのを受けてN24とN25の解体を開始した。この2層はほぼラテライトで構成されており、解体取り上げには周囲の発掘が必要とされたため、基壇外周約1mの範囲について発掘をおこなった。その過程で基壇南外側の2カ所からさらに埋納土器が発見された。

1月以降、基壇内石列の調査を随時おこなうとともに、再構築と基壇の再版築の工法を検討し、実施の準備に入った。その後は改良土のために鋭意2種類のパウダー作りをおこない、2014年6月のICCでの提案を受け、工法についての最終確認をおこなった後、6月後半から基壇土の再版築を開始した。



第1図 中央祠堂南階段の修復



第2図 基壇土試験盛土



第3図 建築班調査



第4図 ハンドオーガーによる掘削調査